

ガーデンシティふかや推進室[ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!



ボランティア募集!

～市民協働の花のまちづくり～



月に1回、週に1回、自分の都合でほんの数時間だけでも参加してみませんか!

市民ガーデニングボランティア



JR深谷駅北口ステーションガーデン、深谷駅通り、国道17号、深谷城址公園、秩父鉄道武川駅南口の5カ所の花壇を管理しています。

また、『ふかや花フェスタ』での会場装飾もおこなっています。参加できる日が少なくても大丈夫です。皆さんと楽しく花壇を整備して、深谷市をきれいに彩りませんか。



ふかや緑の王国ボランティア



ふかや緑の王国は「市民がつくり 市民が守り育てる 市民の森」。市民との協働作業で成長する王国と一緒に活動しませんか? 王国での四季折々の催しも、ボランティアの力で開催しています。



深谷アダプトプログラム



『アダプト』とは、英語で養子縁組をすること。公園や道路、緑地などの公共空間を市民、学校、各種団体の皆さんが里親となって管理しています。

オレンジの看板が目印です。興味のあるかたは遠慮なくご相談ください。

第31回(2021年)全国花のまちづくりコンクール『花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞』受賞

ふかや緑の王国ボランティアは、第31回(2021年)全国花のまちづくりコンクール『花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞』団体部門を受賞しました。ふかや緑の王国内の各種コンセプトに基づいたさまざまなガーデンを、ボランティアの手により生み出し維持管理していることが評価されました。



ガーデニング教室参加者募集!

アートフラワーを使ったひなリース作り教室

部屋に飾れるひなリース。親子でも参加できます。

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)

とき 1月30日(日)午前10時～正午

ところ ふかや緑の王国

定員 先着10人 参加料 2,500円 講師 飯塚美和氏(フラワーズカンパニー) 申し込み 1月12日(水)午前8時30分から電話で緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)



サクラソウ教室

春が待ち遠しくなる『サクラソウ』。自分で育ててその魅力を感じてみませんか。

とき 2月9日(水)午前10時～正午

ところ ふかや緑の王国

定員 先着10人 参加料 1,200円 講師 河田博氏(王国ボランティア) 申し込み 1月12日(水)午前8時30分から電話で緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)



第12回ふかや緑の王国写真コンテスト作品募集

テーマ ふかや緑の王国の魅力!

撮影期間 令和3年1月4日～12月28日

応募締切 1月6日(水)必着

▶第11回応募作品



第18回福寿草展

新春を彩る福寿草を展示。今よみがえる幻の名花をぜひ、見に来てください。

とき 1月29日(土)・30日(日)午前10時～午後4時(30日は午後3時まで) ところ 深谷市民文化会館

問い合わせ 平成福寿草の会・野辺さん(☎090-1464-8206)、深谷市地域振興財団(☎573-8765)

『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、ツイッター(@garden5551)、『ふかや緑の王国』フェイスブックもご覧ください。



ボランティア団体を紹介します

川本朗読クラブ ひまわり

朗読でのボランティアを目的として、平成10年6月に発足し、23年間活動を続けています。現在の会員数は16人です。

主な活動は、①川本公民館だよりの音訳と録音を月に1回、②地区内の高齢者施設への訪問を月に1回、③地区内2カ所の保育園への訪問を3カ月に1回ずつ、④地区内の子育て支援センターへの訪問を4カ月に1回、その他、社会福祉協議会からの依頼活動などです。これらの活動を、3つのグループに分けて行っています。また、公民館まつりでの朗読発表会があり、指導者から正しい表現などの朗読技術を学んでいます。

私たち会員が活動するにあたり一番大切に思っていることは、聴いてくださるかたに正しく分かりやすく伝えることです。対面朗読では、自分の読みたい本を選ぶのではなく、聴いてくださるかたの年齢や状態を考えて本を選んでいきます。

このコロナ禍でも会員たちは今、自分たちのできる活動を和気あいあいと楽しく行っています。

朗読ボランティアに興味のあるかた、一緒にいかがですか。



▲ボランティアセンターで公民館だよりの音訳・録音を行っています。



▲川本朗読クラブ ひまわりの皆さん

障害福祉課(☎571-1011、FAX574-6667)、市社会福祉協議会(☎573-6563、FAX573-0806)

畠山重忠を知る

深谷出身の英雄「畠山重忠」



武蔵武士の鑑

畠山重忠

今年のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』で、市内畠山で生まれ育ったと伝わる武蔵の有力武将、畠山重忠が登場します。重忠といえば、強くて力持ち、清らかで礼節を重んじる人柄だったといわれ、源平合戦の一つ、『一の谷の戦い』における鴨越の逆落として愛馬をいたわり、担いだ話が有名です。昔から『武蔵武士の鑑』と称されました。このドラマの主役は、鎌倉幕府執権となる北条義時ですが、重忠をはじめ多くの東国武士が登場します。重忠以外にも、深谷出身の人物が登場するかもしれません。この時代の史料は、鎌倉幕府によって編まれた『吾

妻鏡』や、軍記物の『平家物語』、『源平盛衰記』、当時の公家や僧の日記などがありますが、あまり多くありません。これらに書かれた重忠のエピソードは、軍記物にしか書かれていないものもあり、事実とは異なるものもあるでしょう。しかし、重忠と同時代を生きた僧 慈円が『重忠は武士としての望みをかなえ、第一のものと評判されていた』と褒めたように、重忠は人柄・実力ともに優れた人物と評価されており、大河ドラマの題名にある『13人』には入りませんが、歴史的にも重忠はひときわ存在感のある人物だったといえます。後の時代においても、そうした重忠のイメージが受け継がれていったのでしょう。源平合戦から承久の乱に至る時代を、作家の永井路子さんは、『東国対西国の対決』と評していますが、東国で武士が初めて本格的に政権を握り、古代から中世へと移り変わる、日本史上の大画期といえる時代です。ドラマを観れば、きっと胸が